

シャインマスカットの結実後の管理

大粒で高糖度なシャインマスカットをつくるためには、房数の制限や摘粒が欠かせません。早め早めの管理を心がけ必要な房や粒に養分を集中させましょう。

1 摘房

- ・開花前に1新梢1花穂に調整していますが、この状態のままだと着果過多です。必要な房数に調整することで、順調な糖度上昇を促します。

【時期】 1回目ジベレリン処理後～果粒軟化期

【方法】 果房重が700～800gの場合、主枝1mあたり5～6房程度となるよう調整します。

除去する房は、結実不良で着粒数の少ない房や形状が悪い房などが中心です。

【注意点】 2回目ジベレリン処理や摘粒までになるべく房数を減らしておきます。

硬核期（満開30日後～果粒軟化）に過度に房数を減らすと生理障害の発生を助長するので、この時期の摘房はなるべく控えましょう。

2 肩部の位置決め

- ・果房上部の房締まりを良くするために不要な車を切除し肩部の位置を決めます。

【時期】 1回目ジベレリン処理後7日以内

【方法】 果房上部の不要な車を切除します。

花穂整形で適切に小さくできている場合、必須作業ではありません。

【注意点】 二股の花穂は、この時期に分岐部を切除します。

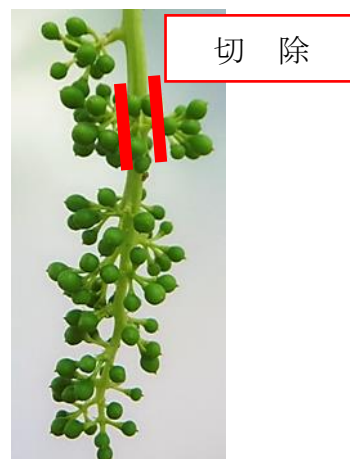


図1 肩部の位置決め

3 穂軸長の再調整

- ・穂軸は満開10～15日頃まで伸長します。予想以上に長くなった場合、適正な長さに再調整する必要があります。

【時期】 2回目ジベレリン処理頃

【方法】 穂軸長が8cm程度となるように、穂軸の先端部を切除します。

この作業も、すでに適切な穂軸長になっている場合は必須作業ではありません。

【注意点】 切除する位置は必ず穂軸の先端部とし、肩部の車は切除しません。

4 摘粒

- ・果粒数を適正にすることで果粒肥大を促すとともに、方向の悪い果粒や房形を乱す果粒を除去することで、良好な房形のぶどうを生産するために重要な作業です。

【時期】① 1回目 : 満開 10~15 日後頃

② 2回目 : 満開 30 日後頃

【方法】1 回目の摘粒では、他の果粒に比べ小さい果粒や房の内部にもぐり込むような内向き果粒などを除去し、50 粒程度にします。

2 回目の摘粒では、傷や病害虫被害のある果粒や房形を乱す果粒などを除去し、おおむね最終粒数（40~45 粒程度）にします。

なお、肩部の締まりを良くするため、上部の車の果粒はなるべく多めに残すようにし、胴部の果粒を中心に除去します。

【注意点】果粒肥大の程度は樹齢や樹勢によって異なるので、目標とする果房重に合わせて粒数を調整しましょう（表 1）。特に若木では、果粒肥大が劣る傾向があります。

2 回目の摘粒と農薬による防除が終わり次第、なるべく早く袋掛けを実施し、病害虫の被害を防ぎましょう。

表 1 果房重及び 1 粒重と果粒数の関係

	果房重					
1 粒重	500g	550g	600g	650g	700g	750g
13g	39粒	43粒	47粒	50粒	54粒	58粒
14g	36粒	40粒	43粒	47粒	50粒	54粒
15g	34粒	37粒	40粒	44粒	47粒	50粒
16g	32粒	35粒	38粒	41粒	44粒	47粒
17g	30粒	33粒	36粒	39粒	42粒	45粒
18g	28粒	31粒	34粒	37粒	39粒	42粒

5 新梢管理

- ・果房と新梢の養分競合を防ぐとともに、過繁茂を防ぎ受光体勢を良好にするため、結実後も定期的に新梢管理を実施します。

【方法】満開 10~15 日後頃までに、着房節周辺の副梢は 2~3 枚、その先は 1 枚残して摘心します。

その後発生する副梢は基部からかき取ります。

硬核期（満開 30 日後~果粒軟化）の新梢管理は生理障害を助長するため、放任します。

果粒軟化後は、果粒肥大を促すため、おおむね 2 週間ごとに再発生する副梢を基部からかき取ります。